社団法人　日本図書館協会　図書館学教育部会
# 会　　報　第11号
昭和55年10月15日発行　編集・発行　図書館学教育部会

## 第12回図書館学教育研究集会盛大に開催

本部会恒例の第12回図書館学教育研究集会が去る9月5〜7日の3日間，人材開発センター富士研修所において，46名という近来にない多数の参加を得て盛大におこなわれた。3日間におけるおもなプログラムの記録（要旨）を下記に御紹介しよう。

第1日目　9月5日(金) 15:00〜17:00
「今後における学術情報システムの在り方について（答申）」をめぐって（講演）
松村多美子氏（図書館情報大学）

はじめに

今年初頭，学術審議会は文部大臣から「今後における学術情報システムの在り方について」の諮問に対し，答申を行なった。我々図書館学教育にたずさわる者も，その内容を知っておくべきであると考え，関係者である松村多美子氏（図書館情報大学）に申答について講演をお願いした。以下はその概要である。

この答申は昭和53年11月，文部大臣から「今後における学術情報システムの在り方について」諮問され，学術審議会は学術情報資料分科会に学術情報部会を設けて審議し，昭和54年6月に中間報告が発表され，国公私立大学および関係機関の意見に基ずいて，更に検討し，今後の新しい学術情報システムの構想がまとめられている。

委員9名の他に，専門委員12名が加わっており，何人かの図書館関係者も参加している。

申答の骨子には，学術情報システムの現状と課題として，三つの点があげられている。

I．一次情報について

一次情報の収集・提供として，伝統的な情報媒体である図書・逐次刊行物等については各大学の図書館等で学内における個別の需要に応じて行われて来た。そのため，全国的な見地から見ると総合性を欠ぐばかりでなく，特に最新情報の収集について不足している面がある。

有効な研究を行なう上で，二次情報を経て必要な一次情報に到達する。そこで二次情報の対象となった一次情報は，少くとも国内のいすれかに所在し，国内の研究者の所属のいかんに拘らず利用できるシステムの整備が望まれる。

我が国の学術研究用の一次情報は全体の約60％が大学図書館に所蔵されているが，大学図書館は各大学毎の必要を満たすことを目的として来たため，学内的にみても，また，全国的見地からみても体系的収集が行なわれ

日本図書館協会
資料室

て来ていない。医学・生物学・理工学，農学の３分野について，文部省は，昭和52年度から自然科学系雑誌購入経費を予算化し，拠点図書館を指定して分担収集を行ない，全国的見地から一次情報収集の補強を図る措置を講じて来た。また，人文・社会科学の分野は，昭和53年から外国図書購入のための予算措置が講じられ，全国的に共同利用が可能な大型コレクション等の整備が図られつつある。

特色ある分野の資料収集が計画的に行われている機関もある。例えば，国文学研究資料館，外国法文献センター，高エネルギー物理学研究所等々がある。

今後の課題として，全国的観点から学術研究のための一次情報の体系的・効率的な収集・整備を図る。資料を迅速，的確に利用に供するため，図書館の管理運営を改善し，サービス機能を格段に強化する。図書館間の相互協力を推進させる。新しい形態の一次情報についても体系的な収集と提供を図る必要がある。

## Ⅱ．二次情報について

二次情報については，高度のコンピューター技術を前提としたデータベースの利用が効果的である。単に迅速的確な検索が可能になるだけでなく，ネットワークの形成によって散在する情報資源の総合的で有効な利用が図られると同時に，情報活動における地域格差の解消にもなる。

昭和５０年７月から東大大型計算機センターのＴＯＯＬ－ＩＲシステムによって，我が国で始めてオンラインで情報検索サービスを全国の大学等の研究者に提供した。筑波大学学術情報処理センターでは，ケミカル・アブストラクト・サービスと共同で，高度の化学情報の提供を行える体制を整えている。ＪＩCSTのＪＯＩＳは，日本語のデータベースによる情報提供等を行っている。ロッキードの情報検索システムも日本に進出している。和書，洋書のMARCデータベースが将来有効に利用できれば，大学図書館の整理業務は能率化し，一次情報の相互利用にも資することになろう。

現在流通している学術情報のデータベースは，その８０％がアメリカ，残りの２０％がヨーロッパのもので，我が国で実用化の域に達しているものはわずかでしかない。今後の課題として，我が国に適したデータベースの形成，および，大規模な国際的データベースへの協力を図り，国際的に応分の発言権を持っていくべきである。

## Ⅲ．学術情報システムの新構造

学術情報システムは，大学・研究所等の図書館，大型計算機センター，国立大学共同利用の研究機関等から成り，人的，物的資源の共有を基調としたネットワーク構造とする。このシステムを運営していく中枢機関が先ず必要で，その中での結節点の機能は，大型計算機センター，共同利用機関等が当る。システムと利用者との接点ターミナルの機能は各大学図書館が担う。

このネットワークを連結する通信網は，基本的には，東大，京大の大型計算機センターと電々公社との協力により開発された新データ網の利用が適当であろう。

## Ⅳ．専門家の養成

情報の流通体制に必要な高度の専門家の第一は，情報処理や管理にたずさわる者，第二に特定の専門分野を専攻し情報技術についての知識を有する者，第三は情報科学の研究者である。

これら人材養成の為，図書館情報大学があり，既存の教育機関の改組充実，文部省実施の研修，講習会の整備充実等すべての機関の総合的な企画，調整を図り，協力体制を確立して実施していくことが望ましい。

V. 質疑応答・意見等

岩猿：人文系の分野に対する配慮が欠けている。委員にも人文系の人が出ていない。データベース化し得る情報が主になっており，漢籍等読んでみなければわからない，あるいは古い資料等が考慮されていない。

ネットワークは，金だけでは動かない。センターが必要だが，センターをいかにつくるかが問題だ。その中枢センターにサービス機能を持ち込むかどうかは問題だ。NIST，MEDLINE，公共図書館全国計画がシステムに関連なく出されているが，これらも加えないと有効に機能しない。JLAとか文部省とかがこれらすべてを超えた日本の情報システムの全体像を出すべきだ。

松村：人文社会と科学技術とは異るので対応させることはむずかしい。一次，二次情報と分けられない分野について，どうしたらよいかは，むしろこちらからうかがいたい。

中枢センターは文部省の外にあって，JICSTのようなものを想定している。

浜田：図書館政策委員会がJLAの中にあるが，岩猿氏の意見を検討して，政府に答申できるようなものができればよい。大学図書館は国公私を超えた研究集会が開かれ，少しづつ縦割りをくづそうとしている。文部省の中でも，大学，学校，公共図書館を管轄する局が異なっており，ネットワークを考える上で，これを統括するような図書館庁でもできるとよい。

石塚(栄)：中枢センターで取扱う機能と特殊データベースとの関係は？

松村：中枢センターのデータベースは一般的なものや，大型のものが多いのでこれらは中枢センターが扱い，主題別データベース，日本固有のデータベースは別に扱う。

石塚(栄)：この境界線は明確に答申に打ち出すべきである。重複が生じる。

岩猿：中枢センターからデータベースサービスを除き，連絡調整機能に限るべきだ。NISTとの関係は？

松村：NISTの方が計画としては大きい。この学術情報システムはNIST計画が完成されれば，この中に包含される。中枢センターは，NISTから見ればサブシステムの一つに過ぎないことになる。

栗原：これは文部省のお墨付きといわれたが，昭和56年度の予算にどの程度要求が出されたのか？

松村：昭和55年度は調査費が付いた。56年度はセンターの設置要求が出ており，センターから設置していくことになろう。

第2日目　9月6日(土) 9:00〜9:30

「図書館学教育におけるカリキュラムの構築をめぐって」（発題講演）

浜田敏郎氏(慶応義塾大学)

一般教育の理念は二つある。

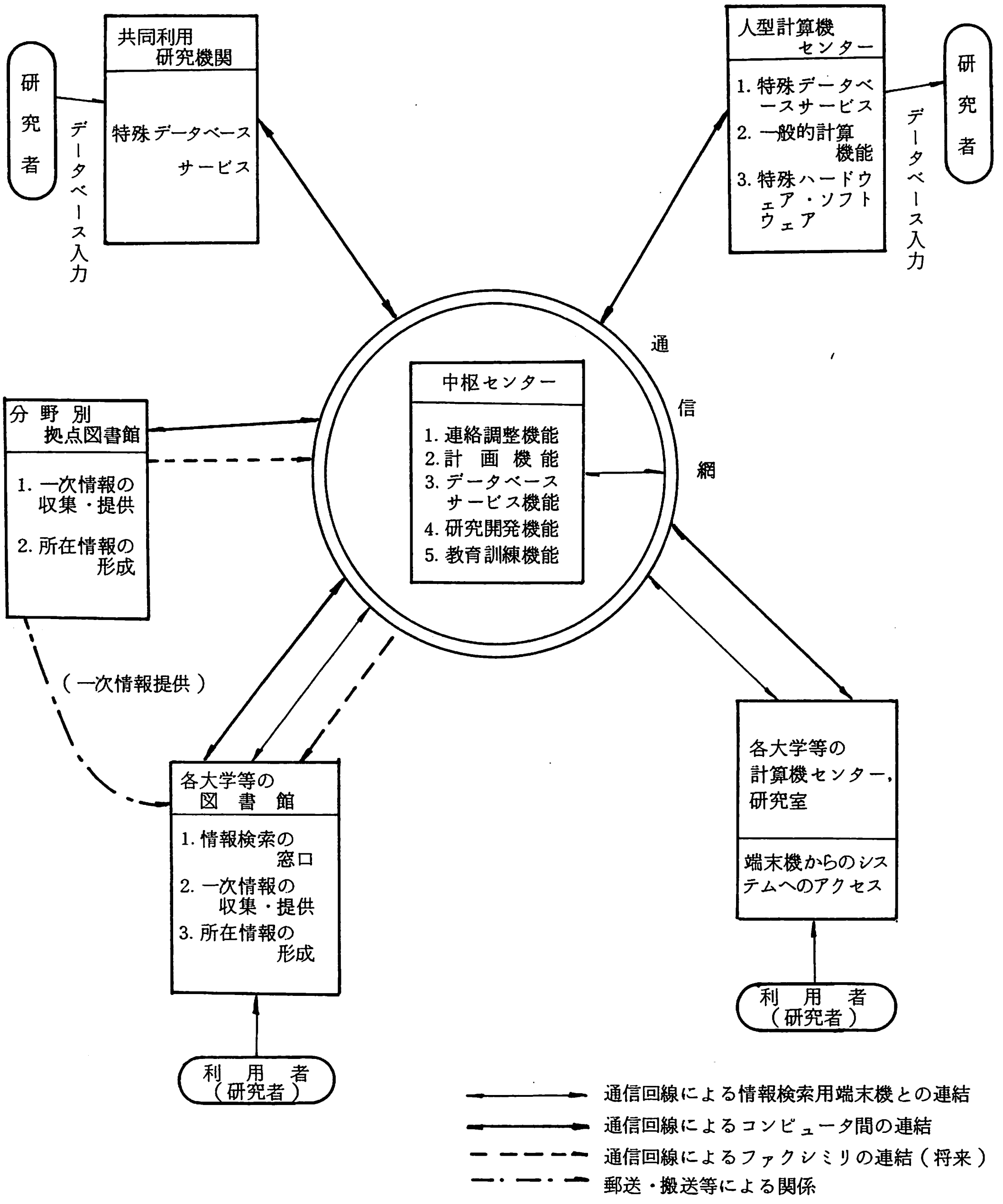
(1) 望ましい人間像に向って教育をする。
現代の多くの教育はこれである。

(2) Open Education
個人の能力を大きく増長させてゆく。これは教育環境を整備しその中に多くのメニューをそろえ，そこから個人が自由に選ぶことができる。欧米ではこのシステムが普及してきている。

望ましい図書館像に合うカリキュラムを作る図書館学教育は communication 活動の所産をあつかうもので，それにはFormal なものと Informal なもの（これは記録にのらないもの）がある。図書館活動は，第二次の communication の活動である。それをくわしくみると下記の通りである。

1. 内外の一般学問の所産をとり入れて，どうチェックしてゆくかが必要である。
2. 同時に内外の学問についても考える。
3. 学生の図書館学勉強後の就職市場先を考えておく。

# 学術情報システム概念図



4. これから図書館学を勉強する学生は，どんな特長をもっているかを知ること。
5. 時間的な制約をもっている。
6. 教員の制約をもっている。（質的・量的問題）。
7. 教授法の問題。

次に授業の内容について

1. 考え方・概論，通論

図書館には，哲学がない，サービスがないと言われている。これをはっきりさせなければならない。但し大変に難しい。

2. 利用調査・研究

特定の利用傾向がなければならない。これを知ること。

3. 資料調査・研究

特定流通を考える。新聞・雑誌・資聴覚等

4. 選択・収集，受入れ
5. 蓄積：索引法，目録法，分類法

これらの設計法，デザイン，フィールド等方法論として確立する必要がある。又各フィールドの比較研究の成果をとりあげる。

6. 検索：二次資料の利用

各データーベースの特性を考える。

7. 提供：レファレンス・貸出
8. 経営管理

図書館を考えた場合の包括的ネットワーク

9. ネットワーク協力政策行政

以上の関連分野との組合せによって何らかの構築がなされてゆく。

a. 他分野の研究成果の応用
b. 特定主題
c. 特定利用対象
d. 特定図書館（公共・大学・専門・学校図書館）

又Library information Scienceという名称もかわってきている。

図書館学部・情報学科（慶応）
図書館情報学（筑波）
情報図書館学

質問：歴史とか図書学をどう勉強させるか？
回答：内容のすべてにかかわって歴史をとらえ又図書学は全体を包括したものとしてとらえている。
質問：歴史は大切であり，ひとつ立てる必要があるのではないか？

第2日目　9月6日(土) 9:30〜10:00
「UNESCO/IFLA PRE-CONFERENCE SEMINAR ON LIBRARY EDUCATION PROGRAMMES IN DEVELOPING COUNTRIES WITH SPECIAL REFERENCE TO ASIAに関する報告」
松村多美子氏（図書館情報大学）

セミナー名：発展途上国とくにアジアにおける図書館学教育に関するUNESCO/IFLAセミナー
開催地：フィリッピン大学・Asian Institute of Tourism.
期間：1980年8月11日〜15日
参加国：スリランカ，セネガル，シンガポール，フィリッピン，フィージー，インド，ホンコン，トルコ，韓国，オーストラリア，中華人民共和国，バングラデシュ，マレーシア，パプア・ニューギニア，ベネズエラ，米国，英国，ドイツ連邦共和国，オランダ，フランス，日本　以上21ケ国
参加人数：約35名
他にフィリッピンの図書館学教育者が数名オブザーバーとして出席。
日程：毎日，8:30 A.M.−5:00 P. M.
午前　講演2つとディスカッション
午後　講演1つとディスカッション並びにその日の総括ディスカッション

8月11日（第1日）

発議講演：英国シエフィールド大学図書館情報学部長・ソンダース教授「図書館学教育をとりまく環境」。

ユネスコ総合情報計画局のロバーツ氏

「発展途上国において図書館情報システム計画に関して考慮すべき要因」。さらに,「図書館学教育と実務者」について,国立図書館,大学図書館,公共図書館,専門図書館,官公庁図書館の代表から発言があった。

8月12日(第2日)

「専門職としての要件:準専門職,テクニシャン,事務職員との関係」,「国家レベルでの図書館情報要員計画」,「図書館情報に関する人材開発における地域内,地域間の協力」特に最後のトピックではフィリッピン大学図書館学部(Univ,. of the philippines, Institute of Library Science)で実施中の「東南アジアにおける科学情報専門家の大学院レベル養成コース」が紹介された。これはインドネシア,マレーシア,フィリッピン,シンガポール,タイ(ASEAN 5ケ国)政府の援助をえてUNESCO/UNDP が実施している多国間プロジェクト,今回で第3回(1980年7月〜1981年6月)を迎えている。

8月13日(第3日)

「図書館・情報学教育の総合的アプローチ」について松村多美子氏講演,さらに「図書館学教育課程のレベル」について討議

8月14日(第4日)

「図書館学課程への入学条件」,「図書館・情報学教育における共通コア教科目」について米国カリフォルニア大学ロスアンゼルス分校図書館学部長ヘイズ博士の講演があった。特にこれは,前日の松村氏のペーパーを受けたもので,図書館学,情報科学,文書学のすべてに共通する基本的な教科目を探ろうとするものであった。

8月15日(第5日)

「図書館学の実務とリサーチ」について最終日に総括討議がおこなわれ,IFLA総会に対する勧告がまとめられ,つづいてマニラで開かれたIFLA総会で報告された。

勧告:(1) アジア地域における地域図書館学校(Regional Library School)の設置の可能性について調査検討する必要がある。

(2) 日進月歩するテクノロジーの教育への応用,図書館情報サービスに適用されるテクノロジーの多様化,増大にともない図書館学教育者の再教育の方策を検討する。

(3) 図書館学,情報科学,文書学はすべてコミュニケーション,ユーザーに関連する領域であることから,これらに共通する基礎的にコア領域の検討が必要である。

第2日目 9月6日(土) 10:30-12:00

「世界の動向」(報告)

高山正也氏他(慶応義塾大学)

"図書館情報学とは何か"これはもうすでにかたまっている学問とは違って若いものであり,流動的なものである。そこで外国でどのように図書館学が出来たかを調べ,特に日本で多くの影響を受けた米国について調べてみることにした。ここでの報告は,米国ALA承認の博士課程を開設している20校の資料をとり寄せ,それぞれのテーマにもとづいて分析した。

序論

A. カリキュラム班

B. 教科書班

C. コア・論文班

D. 年表班

E. 研究動向班

序論

1. 1970年代米国の図書館・情報学科の変化

1970年代米国ALAの図書館学校はどうかをみるとLibrary School からSchool of Library & Information Scienceへと変化する時代である。その数は1971年の18.8%

から1978年の31.7％ であり。又地域別にみると北東部だけだと70％がSchool of Library & Information Science となっており，次いで西部の43％である。

日本においては，1972年東京大学が情報・図書館学研究センターを開設し1980年には図書館情報大学が開校された。慶応が図書館・情報学専攻を開設したのが1967年，次の年に図書館・情報学科と改称している。

2. 各校の開設科目の分析

博士課程開設校23校のうち20校について，1980年時点までのものを，日本の図書館・情報学教育基準に準拠して開設科目を分析してみた。

20校の平均開設科目は1校当り約60科目である。

3. 個別校の状況

School of Information Studiesとする(A)Syracuse Univ. と伝統をもちGraduate Library School を名乗る(B) Chicago Univ. をとりあげて科目内容をみると次の通りである。

(A) Syracuse Univ.

a. 基礎共通科目は各期開講科目，年一回開講科目，二年に一度開講科目，不定期開講科目がある。基礎科目のCoreとして各期開講科目がおかれているがその中のcore は次の通りである。

1 参考業務と情報サービス
2. 情報源の組織化
3. 情報サービスのための経営管理原則
4. 情報の収集と評価
5. 情報システムの分析
6. 政府と情報
7. 非文献メディアサービス入門
8. 研究・調査・演習
9. フィールド・ワーク
10. Reading & Research

b. 選択科目

1. 地域社会情報サービス（9科目）
(Community Information Services including public libraries)
2. 情報管理 （13科目）
(Information Management)
3. 博物館及び文化研究図書館（7科目）
(Museum and Art Research Libraries)
4. 検索システムを含む情報産業（10科目）
(Information industry)
5. 学校図書館・メディア専門家（9科目）

(B) The Univ. of Chicago, The Graduate Library School

a. 必修科目（Core Courseが含まれている）

1. 図書館資料の組織化，評価，利用
2. 情報資料ユーザー
3. 電算機組織とプログラミングの原則
4. 実証的研究調査法
5. 統計学（情報学のための基礎数学，図書館管理のための数学入門，他学部の統計学，統計学についての特別試験の何れか一つを履習する）

b. 選択科目

次の中から11科目選択（他分野のMaster's or Doctor's degree 保有者は8科目以上選択）

第1グループ：Intellectual access to information
a. 目録と分類（3科目）
b. 参考図書，書誌及び書誌調整（6科目）
c. 機械化と書誌調整（3科目）
d. 情報検索（2科目）

第2グループ：Type of material
a. 公共図書館（2科目）
b. 学術研究図書館（6科目）
c. 専門図書館（2科目）
d. 児童図書館と児童文学（7科目）
e. 比較図書館研究（1科目）

第3グループ：Historical studies（4科目）

第4グループ：印刷と出版（4科目）

c．以上必修，選択科目における図書館，情報学固有の知識に加えて，次に掲げる知識のいくつかを身につけることが要求される。（科目は他のSchool の開設科目をもってする。）

1. 経営管理
(Graduated School of Business 6科目）
2. 計量的経営管理手法
(Graduated School of Business 5科目）
3. 行動科学
（経営学5科目）
4. 病院管理論
（経営学5科目）
5. 情報システムとコンピュータ
（経営学5科目）
6. 統計学
（統計学3科目，経営学3科目，数学・教育学各1科目）
7. 図書館に対する社会の及ぼす影響
（教育学2科目，工学・社会科学・人文科学社会学各1科目）
8. 社会コミュニケーション
（工学2科目，社会学・経営学各1科目）
9. 教育学
（教育学9科目）
10. 比較図書館学
（文化人類学・社会学各1科目）
11. 定性的研究調査法
（史学・教育学・工学各1科目）
12. ラテン・アメリカ研究
（文化人類学2科目，芸術学・経済学・教育学・史学・政治学・スペイン語各1科目）
13. 言語学及び論理学
（言語学3科目，哲学2科目）

以上はシカゴ大学1978年－'80年における開設科目であるが，これを1970年当初とくらべてどのように変っているかをみると，Master Course (Core course) では図書館と社会1科目，図書館システム設計Ｉを1科目，図書館資料の組織化，評価，利用4科目となっている。又関連学科との関係においては，二学位の取得が可能となっている。

a．次のGraduate School との間で二つのMaster の取得が可能である。

Graduate School of Business
　Library administrator の養成のため
Graduate School of Education
　School Librarian のため
Department of South Asian Language and Civilization
　South Asian Library South Asian Bibliography の担当職員養成のため

b．次のGraduate School との間ではph.D の取得が可能である。

Department of Far Eastern Languages and Civilization
　Far Eastern Lihrarianship
Law School
　Law School のカリキュラムを消化した後にLibrary School でDh.D paperを出してLaw Librarianship。

4. 米国A. L. A. 承認20校とLib. School, Lib. of Information Science間の図書館情報学統一基準をみると次のようである。

| | 20 校 | Lib. School 12校 | School of Lib. & Information Science 8 校 |
|---|---|---|---|
| 1. 基礎部門 | 14 % | 15 % | 13 % |
| 2. メディア利用部門 | 36 | 37 | 35 |
| 3. 情報組織部門 | 14 | 11 | 17 |
| 4. 情報システム部門 | 21 | 22 | 18 |
| 5. Lib. School 開設で1～4以外のもの | 12 | 11 | 13 |
| 6. 実習を伴うもの | 2 | 2 | 2 |
| 7. Lib. School以外の開設科目を Lib. School のCore 科目としているもの | 2 | 2 | 1 |

以上を序論として高山氏の報告を終り，次にA～Eの研究班のそれぞれの発表にうつった。

A．カリキュラムについて

日本の図書館情報学がどういう方向にあるか次の資料からみると非常勤講師の依存度が高い。

担当教員数の比較 (47年)

| | | 教授 専任 | 教授 兼担 | 助教授 専任 | 助教授 兼担 | 講師 専任 | 講師 兼担 | 助手 | 非常勤講師 | 計 | 1校平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学 | 国立 | 17 | | 12 | 4 | 2 | | | 44 | 79 | 2.3 |
| | 公立 | 1 | 5 | 1 | 2 | | | | 10 | 19 | 4.8 |
| | 私立 | 89 | 27 | 41 | 32 | 34 | 9 | 7 | 263 | 502 | 7.3 |
| | 小計 | 107 | 32 | 54 | 38 | 36 | 9 | 7 | 317 | 600 | 5.6 |
| 短大 | 国立 | 6 | | 4 | | 1 | | 1 | 22 | 34 | 34.0 |
| | 公立 | | 1 | 1 | 4 | 1 | | | 9 | 16 | 8.0 |
| | 私立 | 78 | 17 | 29 | 16 | 45 | 8 | 3 | 226 | 422 | 6.0 |
| | 小計 | 84 | 18 | 34 | 20 | 47 | 8 | 4 | 257 | 472 | 6.5 |
| 合計 | | 191 | 50 | 88 | 58 | 83 | 17 | 11 | 574 | 1072 | 6.0 |
| | | 17.8 | 4.7 | 8.2 | 5.4 | 7.7 | 1.6 | 1.0 | 53.6 | 100.0 | |

## 担当教員数の比較 (52年)

| | | 教授 専任 | 教授 兼担 | 助教授 専任 | 助教授 兼担 | 講師 専任 | 講師 兼担 | 助手 | 非常勤 講師 | 計 | 1校平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学 | 国立 | 15 | | 14 | | 3 | | | 42 | 74 | 1.7 |
| | 公立 | 8 | | 2 | | 2 | | | 18 | 30 | 6.0 |
| | 私立 | 147 | 8 | 49 | 1 | 34 | 8 | 2 | 332 | 581 | 6.9 |
| | 小計 | 170 | 8 | 65 | 1 | 39 | 8 | 2 | 392 | 685 | 5.2 |
| 短大 | 国立 | 7 | | 4 | | 1 | | 4 | 23 | 39 | 39.0 |
| | 公立 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | | 13 | 22 | 11.0 |
| | 私立 | 126 | 8 | 51 | 1 | 62 | 11 | 2 | 284 | 545 | 5.5 |
| | 小計 | 135 | 9 | 56 | 3 | 64 | 13 | 6 | 320 | 606 | 6.0 |
| 合計 | | 305 | 17 | 121 | 4 | 103 | 21 | 8 | 712 | 1291 | 5.5 |
| | | 23.6 | 1.3 | 9.4 | 0.3 | 8.0 | 1.6 | 0.6 | 55.2 | 100.0 | |

## 設置単位数の比較 B

| | 単位数 | 1- | 4- | 8- | 10- | 19- | 21- | 26- | 31- | 41- | 51- | 61- | 70- | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 47年 | 校数 | 12 | 14 | 30 | 3 | 10 | 46 | 32 | 19 | 5 | 3 | 2 | 4 | 180 |
| | % | 6.7 | 9.8 | 16.7 | 1.7 | 5.5 | 25.5 | 17.8 | 10.5 | 2.8 | 1.7 | 1.1 | 2.2 | 100. |
| 52年 | 校数 | 23 | 20 | 37 | 8 | 9 | 48 | 40 | 32 | 6 | 1 | 5 | 3 | 232 |
| | % | 9.9 | 8.6 | 15.8 | 3.5 | 3.9 | 20.7 | 17.2 | 13.8 | 2.6 | 0.4 | 2.2 | 1.3 | 100. |
| | | +11 | +6 | +7 | +5 | -1 | +2 | +8 | +13 | +1 | -2 | +3 | -1 | 52 |

ヘイキンチ (under the 21- column)

設置科目を又次の資料からみると日本の場合上位23で81.1%をしめ，伝統的図書館学の科目にかたより，情報学の科目が少ないことがわかる。

設置科目状況　(52年大学のみ)

(1)

| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 |
|---|---|---|---|---|
| 図書館通論 | 22(52.3) | 5(100.) | 75(89.2) | 107(77.8) |
| 資料整理法特論 | 20(47.6) | 2(40.0) | 57(67.8) | 79(60.3) |
| 学校図書館通論 | 21(50.0) | 3(60.0) | 50(59.5) | 74(56.4) |
| 図書館資料論 | | 4(80.0) | 64(76.2) | 68(51.9) |
| 資料目録法 | 2( 4.7) | 3(60.0) | 56(66.6) | 61(46.5) |
| 参考業務 | 2( 4.7) | 4(80.0) | 53(63.1) | 59(45.0) |
| 資料分類法 | 2( 4.7) | 3(60.0) | 53(63.1) | 58(44.2) |
| 図書及び図書館史 | 1( 2.3) | 4(80.0) | 53(63.1) | 58(44.2) |
| 図書館活動 | 2( 4.7) | 5(100.) | 47(55.9) | 54(41.2) |
| 社会教育 | 5(11.9) | 4(80.0) | 42(50.0) | 51(38.9) |
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 |
| 資料目録法演習 | | 2(40.0) | 48(57.1) | 50(38.1) |
| 参考業務演習 | | 3(60.0) | 44(52.3) | 47(35.8) |
| 資料分類法演習 | | 2(40.0) | 41(48.8) | 43(32.3) |
| 視聴覚教育 | 4( 9.5) | 2(40.0) | 35(41.6) | 41(31.2) |
| 情報管理 | 1( 2.3) | 2(40.0) | 35(41.6) | 38(29.0) |
| マス・コミュニケーション | 2( 4.7) | 3(60.0) | 31(36.9) | 36(27.4) |
| 青少年の読書と資料 | 1( 2.3) | 4(80.0) | 30(35.5) | 35(26.7) |
| 人文科学及び社会科学の書誌解題 | | 3(60.0) | 31(36.9) | 34(25.9) |
| 図書以外の資料の利用 | 10(23.8) | | 15(17.8) | 25(19.1) |
| 児童生徒の読書活動 | 7(16.6) | | 18(21.4) | 25(19.1) |
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 |
| 学校図書館の管理と運用 | 10(23.8) | | 14(16.6) | 24(18.3) |
| 図書の選択 | 7(16.6) | | 15(17.8) | 22(16.8) |
| 自然科学と技術の書誌解題 | | 1(20.0) | 21(25.0) | 22(16.8) |
| 合計 | 119 | 53 | 928 | 1106 |
| | 78.2% | 77.9% | 81.0% | 81.1% |

次に世界の情況はどうかをみてみる。

a. アメリカ情報学会ＡＳＩＳの調査結果

この回答は1968年45校，1972年 71 校からのもので，伝統的図書館学の学校も含まれている。1972年になると情報学コースに進んでいるのがわかる。

### コースの提供頻度の比較

| コース名 | 1968年 | 1972年 |
|---|---|---|
| 情報科学概論 | 18 | 51 |
| システム分析，設計，評価 | 12 | 47 |
| 情報の蓄積と検索 | 36 | 43 |
| データ処理 | 7 | 33 |
| 計算機プログラミング | 6 | 29 |
| 分類法，索引法，抄録法の理論 | — | 23 |
| コミュニケーション | — | 22 |
| 図書館の自動化 | 15 | 19 |
| 数学 | 9 | 18 |
| 情報科学における調査研究方法 | 10 | 11 |
| データ構造（ファイル編成） | — | 11 |
| 相互作用型システムとネットワーク | — | 11 |
| 言語と言語学 | 9 | — |

### コースのオリエンテーションの比較

| コースのオリエンテーション | 1968年 | 1972年 |
|---|---|---|
| 計算機科学 | 20% | 30% |
| 図書館[illegible] | 42 | 30 |
| 行動科学 | 6 | 5 |
| 数学および論理学 | 9 | 7 |
| 統計学 | 2 | 2 |
| オペレーションズ・リサーチ | 6 | 5 |
| 言語学 | 4 | 5 |
| 工学 | 1 | 5 |
| その他 | 10 | 11 |

### 教授方法の比較

| 教授方法 | 1968年(%) | 1972年(%) |
|---|---|---|
| 講義 | 58 | 57 |
| セミナー | 19 | 20 |
| 実験室 | 18 | 14 |
| 実習 | 5 | 9 |

### 教科書使用の比較

| コースでの教科書使用 | 1968年(%) | 1972年(%) |
|---|---|---|
| 使用する | 49 | 53 |
| 使用しない | 48 | 13 |
| 回答なし | 3 | 34 |

### 成績評価方法の比較

| 成績評価方法 | 1968年(%) | 1972年(%) |
|---|---|---|
| 試験 | 45 | 48 |
| 期末ペーパー | 40 | 35 |
| プロジェクト | 15 | 17 |

### コース選択の比較

| 必修コースまたは選択コース | 1968年(%) | 1972年(%) |
|---|---|---|
| 必修コース | 30 | 33 |
| 選択コース | 56 | 61 |
| 回答なし | 14 | 6 |

### 学士課程のクラスター（1972年）

(a)

| 第1クラスター：情報科学概論 |
|---|
| 符号化 |
| コミュニケーション |
| 情報ニーズ |
| 情報の蓄積と検索 (IS & R) |
| 情報理論 |
| 経営情報システム (MIS) |
| 探索技術 |

(b)

| 第2クラスター：知識の組織化理論 |
|---|
| 抄録法 |
| 目録法 |
| 分類法 |
| 索引法 |

(c)

| 第3クラスター：言語学 |
|---|
| 記述文法 |
| 生成文法 |
| 言語学と情報処理 |
| 自然言語分析 |
| 音韻論 |
| 統計的言語学 |

(d)

| 第4クラスター：システムと評価 |
|---|
| 評価方法論 |
| 効果の測定 |
| 模型の作成法 |
| システム分析 |
| システム設計 |

(e)

| 第5クラスター：数学 |
|---|
| 微積分 |
| 微分方程式 |
| ラグランジュの乗数 |
| 線型計画法 |
| 数学と論理学 |
| 非線型計画法 |
| 集合論 |
| ベクトルと行列 |

(f)

| 第6クラスター：計算機入門 |
|---|
| 計算機プログラミング |
| 計算機 |
| データ処理 |
| フローチャート作成 |
| ハードウェア |
| 言語一般 |
| ソフトウェア |

(g)

| 第7クラスター：計算機オペレーティング・システム |
|---|
| 計算機 |
| 機械言語 |
| 多重プログラミング |
| オペレーティング・システム |
| タイム・シェアリング |

(h)

| 第8クラスター：データ・ベース構造 |
|---|
| ファイル編成 |
| 情報構造 |
| 鎖リスト |
| 木構造 |

修士課程のクラスターは次の通りである。

| Introduction to Information Science<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| Automatic ISR | 38 | 2.643 |
| Analysis of Information | 38 | 2.500 |
| Information Storage and Retrieval (ISR) | 35 | 2.629 |
| Library Automation | 33 | 3.091 |
| Evaluation of Information Retrieval Systems | 33 | 2.364 |
| Auto-Indexing | 33 | 2.182 |
| Indexing | 31 | 2.323 |
| Content Analysis | 30 | 2.450 |
| Classification | 19 | 2.632 |
| Data Processing | 19 | 2.421 |
| Computers | 19 | 2.211 |
| Bibliographic Control | 18 | 2.667 |
| Data Processing Equipments | 18 | 2.389 |
| Design of Information Systems | 18 | 1.944 |
| Library Science and ISR | 17 | 2.588 |
| Search Strategy and ISR | 15 | 2.467 |
| System Analysis | 14 | 2.714 |
| Communication | 14 | 2.429 |
| Information Transfer | 14 | 2.143 |
| Information Centers and Mass Communication | 13 | 2.015 |
| File Organization | 13 | 2.308 |
| Library Management | 12 | 2.333 |
| Thesaurus | 11 | 2.091 |
| Measures of Effectiveness | 11 | 2.000 |
| Information Resources | 10 | 4.000 |
| Computer Programming | 10 | 3.000 |
| Reference Service | 9 | 3.333 |
| Circulation Systems | 9 | 2.333 |
| Information Needs | 9 | 2.222 |

| Systems Theory and Applications<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| System Analysis | 24 | 2.167 |
| O.R. and Information Systems | 19 | 2.474 |
| System Design | 16 | 2.312 |
| Design of Information Systems | 13 | 3.154 |
| Data Processing | 13 | 2.308 |
| Automatic ISR | 12 | 1.917 |
| Library Automation | 11 | 3.000 |
| Evaluation of Information Retrieval Systems | 11 | 2.727 |
| Management Information Systems | 9 | 3.667 |
| Data Processing Equipments | 9 | 3.000 |
| Information Storage and Retrieval | 9 | 2.000 |
| Economical Analysis | 9 | 1.889 |
| Information System Environment | 9 | 1.667 |
| Behavioral Aspects of Systems Theory | 8 | 4.000 |
| Library Management | 7 | 2.571 |
| Organization Theory | 7 | 2.429 |
| Scientific Methods | 7 | 2.286 |
| Decision Processes | 7 | 2.143 |
| Information Transfer | 7 | 2.143 |
| Evaluation Methodology | 7 | 2.143 |
| Planning, Staffing, Implementation of Library Automation Projects | 6 | 2.667 |
| Measures of Effectiveness | 6 | 2.500 |
| Managerial Objectives | 6 | 2.167 |
| Interactive Systems | 6 | 2.167 |

| Computer Organization and Programming Systems<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| Computer Programming | 12 | 3.833 |
| Data Processing | 10 | 3.600 |
| Data Processing Equipments | 10 | 3.400 |
| Computers | 10 | 2.000 |
| Automatic ISR | 6 | 4.167 |
| Information Structure | 6 | 2.833 |
| Information Languages | 6 | 2.667 |
| Software | 6 | 2.667 |
| Machine Languages | 6 | 2.333 |
| File Organization | 5 | 3.400 |
| Hardware | 5 | 2.400 |
| Linguistics and Information Processing | 5 | 2.200 |
| Search Strategy and ISR | 4 | 4.000 |
| Information Storage and Retrieval | 4 | 3.000 |
| Evaluation of Information Retrieval Systems | 4 | 1.750 |
| Analysis of Information | 3 | 3.000 |
| Coding | 3 | 2.667 |
| System Analysis | 3 | 2.667 |
| Algorithms | 3 | 2.333 |
| Compilers | 3 | 2.333 |
| Model Buildings | 3 | 2.333 |
| Man-Machine Interface | 3 | 2.000 |

| Mathematical Methods in Information Science<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| Mathematical Logic | 10 | 4.500 |
| Algebra | 7 | 4.143 |
| Set Theory | 7 | 3.587 |
| O.R. and Information Systems | 6 | 2.500 |
| Model Building | 6 | 2.000 |
| Probability Distribution | 5 | 3.600 |
| Vectors and Matrices | 5 | 2.600 |
| Role of Theory in Retrieval | 4 | 2.250 |
| Evaluation of Information Retrieval Systems | 4 | 2.000 |
| Group Theory | 3 | 6.667 |
| Metamathematics | 3 | 5.333 |
| Graph Theory | 3 | 4.667 |
| Combinatorial Mathematics | 3 | 4.000 |
| Descriptive Statistics | 3 | 3.333 |
| Automata Theory | 3 | 2.667 |
| Turing Machines | 3 | 2.667 |
| Algorithms | 3 | 2.333 |
| Information Structure | 3 | 2.000 |
| Statistical Analysis | 3 | 1.667 |
| Artificial Languages | 3 | 1.667 |
| Measures of Effectiveness | 3 | 1.333 |
| Classification | 3 | 1.333 |

| Abstracting—Indexing—Cataloging<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| Indexing | 8 | 2.375 |
| Abstracting | 7 | 2.714 |
| Content Analysis | 7 | 2.286 |
| Classification | 7 | 2.286 |
| Auto-Indexing | 7 | 2.286 |
| Extracting | 6 | 2.333 |
| Thesaurus | 6 | 2.167 |
| Coordinate Indexing | 5 | 2.400 |
| Analysis of Information | 4 | 2.500 |
| Derived Indexing | 4 | 2.250 |
| Information Storage and Retrieval | 4 | 2.000 |
| Bibliographic Control | 4 | 2.000 |
| Consistency in Indexing | 3 | 2.333 |
| Subject Headings | 3 | 2.000 |
| Automatic ISR | 3 | 2.000 |
| Citation Indexing | 3 | 2.000 |
| Evaluation of Information Retrieval Systems | 3 | 2.000 |
| Indexing of Special Materials | 2 | 2.000 |
| Information Resources | 2 | 2.000 |
| Economical Analysis | 2 | 2.000 |
| Data Processing | 2 | 2.000 |

| Research—Methods<br>Topic | No. of Respondents | Average No. of Hours |
|---|---|---|
| Scientific Methods | 6 | 2.833 |
| Research Techniques | 5 | 3.800 |
| Analysis of Information | 4 | 3.000 |
| Decision Processes | 4 | 2.250 |
| Library Service and ISR | 3 | 3.667 |
| O.R. and Information Systems | 3 | 3.333 |
| Statistical Analysis | 3 | 2.000 |
| Technical Writing | 2 | 4.000 |
| Bibliographic Control | 2 | 4.000 |
| Design of Experiments | 2 | 3.000 |
| Interactive Systems | 2 | 2.500 |
| Computer Programming | 2 | 2.500 |
| Model Building | 2 | 2.500 |
| System Analysis | 2 | 2.500 |
| System Design | 2 | 2.000 |
| Evaluation Methodology | 2 | 2.000 |
| Information Storage and Retrieval | 2 | 2.000 |
| Flowcharting | 2 | 2.000 |

修士課程のクラスター（1972年）

(a)

**第1クラスター：情報科学概論**

- 符号化
- コミュニケーション
- サイバネティックス
- 決定プロセス
- 情報サービス
- 情報システムの環境
- 情報理論
- 言語一言語学

(b)

**第2クラスター：システム評価**

- 評価の方法論
- 情報システムの評価
- 効果の測定
- システム分析
- システム設計

(c)

**第3クラスター：計算機入門**

- 計算機プログラミング
- 計算機
- データ処理
- データ処理装置
- フロチャート作成
- ハードウェア
- 言語一般
- ソフトウェア

(d)

**第4クラスター：計算機オペレーティング・システム**

- コンパイラ
- 機械言語
- 多重プログラミング
- オペレーティング・システム
- タイム・シェアリング

(e)

**第5クラスター：情報の蓄積と検索**

- 抄録法
- 情報の自動蓄積と自動検索
- 分類法
- 事物検索
- ファイル編成
- 索引法
- 検索理論の機能
- 探索戦略
- 探索技術
- シソーラス

(f)

**第6クラスター：計算の理論**

- アルゴリズム
- オートマトン理論
- 有限状態機械
- 帰納的関数理論
- チューリング機械

(g)

**第7クラスター：図書館システムの自動化**

- 図書館と情報ネットワーク
- 貸出しシステム
- 図書館の標準規格
- MARC システム
- 図書館の自動化
- 図書館の自動化の企画，職員の配置および実行

博士課程のクラスターは次の通りである。

（博士課程プログラム）（1972）

(a)

**第1クラスター：情報システム**

- 符号化
- ファイル編成
- 科学史
- 情報構造
- 情報理論
- 情報システム
- 経営情報システム
- 探索戦略
- 木構造

(b)

**第2クラスター：図書館システム**

- 貸出しシステム
- 図書館の自動化
- 図書館の標準規格
- MARC
- 図書館の自動化プロジェクトの企画，職員配置および実行

(c)

**第3クラスター：知識の組織化理論**

- 抄録法
- 分類法
- 索引法
- 情報の蓄積と検索
- シソーラス

(d)

**第4クラスター：言語学**

- 文脈自由言語
- 生成文法
- 言語一般
- 言語学と情報処理

(e)

**第5クラスター：システムの評価**

- 評価方法論
- 情報の蓄積と検索システムの評価
- 効果の測定
- システム分析
- システム設計

(f)

| 第6クラスター：調査研究方法 |
|---|
| コミュニケーション |
| 実験計画法 |
| 情報センターおよびマス・コミュニケーション |
| メディア |
| 心理学 |
| リサーチ手法 |

(g)

| 第7クラスター：数学 |
|---|
| 微積分 |
| 微分方程式 |
| 記述統計学 |
| 数学と論理学 |
| ベクトルと行列 |

(h)

| 第8クラスター：統計学 |
|---|
| 決定プロセス |
| 確率分布 |
| 待合せ |
| 標本抽出 |
| 統計的分析 |
| 統計的決定理論 |

(i)

| 第9クラスター：計算機プログラム |
|---|
| プログラミング |
| 計算機 |
| データ処理 |
| ハードウェア |
| 機械言語 |
| ソフトウェア |

(j)

| 第10クラスター：計算機オペレーティング・システム |
|---|
| コンパイラ |
| 多重プログラミング |
| オペレーティング・システム |
| タイム・シェアリング |

(k)

| 第11クラスター：計算の理論 |
|---|
| アルゴリズム |
| オートマトン理論 |
| 有限状態機械 |
| 帰納的関数理論 |
| 集合論 |
| チューリング機械 |

b. OECD（1973年）修士課程用のカリキュラム

## TOPICS IN PROGRAMMES P2-P5

| Topic | P2 B1 | P2 B2 | P3 B1 | P3 B2 | P4 B1 | P4 B2 | P5 B1 | P5 B2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **1. Generation and use of data bases** | | | | | | | | |
| (1) Generation and use of data bases | 2 | . | 2 | 2 | 2 | 2 | . | . |
| (2) Human communication | . | . | . | . | 3 | . | 2 | . |
| **2. Data bases and their characteristics** | | | | | | | | |
| (1) Data base sources and resources | 1 | . | 2 | . | 3 | . | . | . |
| (2) Macro- and micro-characteristics of data bases | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (3) Natural and formal languages | . | . | . | . | . | . | 2 | 2 |

(Column heading: Programme and Branch)

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **3. Organisation and dissemination of data** | | | | | | | | |
| Survey | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (1) Data acquisition, description, compression | 2 | . | 2 | . | 2 | . | . | . |
| (2) Taxonomies, classification of data | 2 | | 2 | . | 2 | . | . | . |
| (3) Indexes and indexing | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | . | . |
| (4) File structure and organisation for retrieval | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | . | . |
| (5) Data transmission, communication, dissemination | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | . | . |
| **4. Information storage and retrieval (ISR) systems** | | | | | | | | |
| (1) ISR systems analysis and design | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (2) System/system and system/man interfaces | . | 2 | 3 | 2 | 2 | 1 | . | . |
| (3) ISR systems and systems networks | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | . | . |
| (4) ISR systems environments | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | . | . |
| (5) ISR systems operation | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | . | . |
| **5. Theoretical and technical tools** | | | | | | | | |
| (1) Mathematical foundations | . | 2 | . | 2 | 3 | 2 | 2 | 1 |
| (2) Research methods | . | . | . | . | . | . | 2 | 2 |
| (3) Operational research | . | . | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| (4) Statistical methods of research | 3 | . | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 | 2 |
| (5) Management principles and techniques (incl. financial management) | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | . | . |
| (6) Technical equipment for ISR systems: characteristics and use (incl. computers) | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| **6. Special topics** | | | | | | | | |
| (1) Advanced computer programming (and organisation) natural language | 3 | . | 3 | . | 2 | . | 2 | . |
| numerical, graph | . | 2 | . | 2 | . | 2 | . | 2 |

**Notes:**

1 = required (core)
2 = recommended
3 = optional

B1 = natural language base systems
B2 = symbol-, graph-base systems

c. ヨーロッパにおけるインフォメーション
スペシャリスト用のカリキュラム

MAJOR AND MINOR TOPICS IN EIGHT EUROPEAN PROGRAMMES FOR INFORMATION SPECIALISTS (POSTGRADUATE LEVEL)

| Topic | Programme | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | N1 | S1 | G1 | F2 | F1 | Y1 | UK1 | G2 |
| **1. Generation and use of data bases** | | | | | | | | |
| (1) Generation and use of data bases | | o | o | o | | x | x | o |
| (2) Human communication | | | | o | | o | | |
| **2. Data bases and their characteristics** | | | | | | | | |
| (1) Data base sources and resources | x | o | x | o | x | x | x | o |
| (2) Macro- and micro-characteristics of data bases | x | o | x | x | o | o | x | o |
| (3) Natural and formal languages | | | o | o | o | o | | x |
| **3. Organisation and dissemination of data** | | | | | | | | |
| (1) Data acquisition, description, compression | x | o | x | o | x | x | x | o |
| (2) Taxonomies, classification of data | x | o | x | x | o | o | x | x |
| (3) Indexes and indexing | o | x | x | o | x | o | x | x |
| (4) File structure and organisation for retrieval | | | | | | | o | x |
| (5) Data transmission, communication, dissemination | o | x | x | o | o | x | o | |
| **4. ISR systems** | | | | | | | | |
| (1) ISR systems analysis and design | | | o | | | | x | |
| (2) System/system and system/man interfaces | | | | | | | | |
| (3) ISR systems and systems networks | o | o | x | x | o | | x | o |
| (4) ISR systems environments. | o | | | | | | x | |
| (5) ISR systems operation | x | x | x | o | x | x | x | o |

| Topic | Programme | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | N1 | S1 | G1 | F2 | F1 | Y1 | UK1 | G2 |
| 5. <u>Theoretical and technical tools</u> | | | | | | | | |
| (1) Mathematical foundations | | | o | o | o | o | | x |
| (2) Research methods | | | | | | | | |
| (3) Operational research | | | o | o | | | o | x |
| (4) Statistical methods of research | | | o | | o | o | x | x |
| (5) Management principles and techniques (incl. financial management) | | | x | | o | | x | |
| (6) Technical equipment for ISR systems: characteristics and use (incl. computers) | o | x | x | x | x | o | x | x |
| 6. <u>Special topics</u> | | | | | | | | |
| (1) Advanced computer programming and organisation | | | | o | x | opt. | x | x |

<u>Notes:</u>

N1,...G2: see Figure 1[illegible] for identification of programmes

x = major topic within the particular programme
o = minor topic within the particular programme

Netherlands N1: Gemeenschappelijke Opleidingscommissie,NIDER-NVB-NVBA

Sweden S1: Swedish council for Scientific Information and Documentation

Germany G1: Lehrinstitut für Dokumentation,Deutsche Gesellscaft für Dokumentation

G2: Zentralstelle für maschinelle Dokumentation,Herriotstrasse

France F2: Institut National des Techniques de la Documentation

F1: Institut d'Etudes Politiques de Paris

Yugoslavia Y1: Center za studij bibliotekarstva, documen[illegible] ije i informacionih zanstoti

United kingdom UK1: Postgraduate School of Librarianship and Information Science

d．UNESCOによるカリキュラム提案

UNESCOによるカリキュラム提案

(a)
人間のコミュニケーション：基礎コース
(1) 理論面：情報伝達過程：図書館情報学の特徴
(2) 実　務　面

(b)
ユーザー・スタディ
(1) 利用者行動と利用者ニーズ：一般
(2) 利用者行動と利用者ニーズ：専門研究
企業，政府，科学技術，社会科学，人文科学
(3) 利用者調査の方法：定量的方法

(c)
情報源(ドキュメンタリー，視聴覚，コンピュータ・ベース)
(1) 一般的な調査
(2) レファレンス，書誌情報源
(3) 科学技術，社会科学，人文科学(情報源の専門研究)
o 実習
マニュアル探索，コンピュータ・データ・ベースによる探索

(d)
情報/データの蓄積と検索
(1) 目録，分類，索引の理論
(2) コンピュータ利用法
(3) システムと設計：比較研究及び評価
o 実習
目録，分類作業，シソーラス作成，抄録作業，基礎コンピュータプログラム

(e)
組織
(1) 経営原理とテクニック
(2) システム環境と目標
(3) 国立，大学，公共，専門，学校図書館と情報システム
(4) システム・オペレーション
(5) 複製
(6) 機械化，自動化
(7) 定量的方法

(f)
特定研究か学位論文
(1) 研究方法

(g)
選択
o 図書館・情報業務の歴史的研究
o 国際的・比較図書館学
o 歴史的書誌
o 出版業・書籍業
o 古文書学
o 図書館教育
o コンピュータ・プログラミング上級

B. 教科書について

1978年2月の実態調査の結果は専任365名中107名，29.4%の回答率で内89通が有効回答で147タイトルの使用教科書をあげている。この内，外国文献は28タイトル。日本図書館協会のものが25タイトル，又52タイトル(45.6%)は各自の教科書のみ使用している。又，教科書は使わず，自分のレポートのみの場合もあり，洋書については28タイトル中25タイトルは米国のものであり，これも科目を沢山もっているところで使用しているにすぎない。

しかし全体としては，現在の日本では，Standard Text Book として消化出来るものはないのではないか。

資料(8, 9, 10)を参照のこと。

C. コア論文

ここでは論文を略して雑誌について調査。

方法

1. 引用分析文献(雑誌論文に引用されてる文献)を使う。
2. Key Paper のリストを使う。
3. 図書館情報分野の章門研究者のもつ重要論文を使う。

問題点

1. 必ずしも論文の重要さと引用度の高さは一致しない。

2. Key Paper として位置づけられている文献が，まだ情報学分野では位置づけられていない。

3. 図書館学の歴史分野の研究者はいても，情報学にはまだ育っていない（特にメディア等）。

資料（12, 13, 14, 15）を参照のこと。

D．年表

資料（16, 17, 18, 19, 20）を参照のこと。

E．研究動向

図書館学研究分野の発展のあとをたどり慶応大学カリキュラムの動向を資料によってみてゆく。

米国における研究分野のカテゴリーと慶応大学の場合，管理・運営は増加を示し又米国においては児童図書館も増加しているが慶応では児童図書館，米国では図書館史が減少し，ネットワークについては米国・慶応共に少なくなっている。又ＩＲ（情報検索），テクニカルは日米共に少ないが，米国は特にＩＲ関係が少ない。慶応の方は図書館教育関係，機械化のものが少ない。

マークについては 1967 年前半に開発されているが，1971 年実際に出はじめてから研究対象となって論文が出ている。

しかし米国でDr. 論文にマーク，機械化が出ていないとなると開発はどこで，どんな人が，どうするのかという問題がのこる。

次の資料の米国・日本を比較してみると大変面白い。

## 各カテゴリーの年度別比率（米国）

単位：%

↓但し研究は2〜3年前

| 年度（論文提出年度） | 管理・運営（インフォーメーションサービス） | ネットワーク（相互協力） | テクニカル・サービス（分類・目録・書誌学） | IR（情報・検索・抄録） | パブリック・サービス | 資料・メディア | 児童図書館（学校図・文学メディアセンター） | 利用調査（コミュニケーション過程の分析） | ビブリオメトリフス（文献に関する分析） | 図書館学教育 | 図書館史 | 外国事情 | その他（出版流通・読書論） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1978 | 21.4 | 3.6 | 1.8 | 1.8 | 3.6 | 1.8 | 26.8 | 14.3 | 5.4 | 1.8 | 7.1 | 7.1 | 3.6 |
| 1977 | 24.3 | 0 | 7.1 | 2.9 | 2.9 | 7.1 | 20.0 | 8.6 | 4.3 | 8.6 | 7.1 | 4.3 | 2.9 |
| 1976 | 27.8 | 1.9 | 7.4 | 0 | 3.7 | 3.7 | 14.8 | 3.7 | 3.7 | 5.6 | 16.7 | 5.6 | 5.6 |
| 1975 | 33.8 | 5.4 | 4.1 | 0 | 4.1 | 4.1 | 12.2 | 8.1 | 5.4 | 4.1 | 12.2 | 5.4 | 1.4 |
| 1974 | 29.1 | 0 | 12.7 | 3.6 | 9.1 | 3.6 | 7.3 | 10.9 | 3.6 | 1.8 | 10.9 | 1.8 | 5.5 |
| 1973 | 35.7 | 5.7 | 2.9 | 1.4 | 5.7 | 1.4 | 12.9 | 8.6 | 2.9 | 5.7 | 8.6 | 1.4 | 7.1 |
| 1972 | 23.1 | 2.2 | 11.0 | 6.6 | 2.2 | 2.2 | 8.8 | 4.4 | 4.4 | 3.3 | 15.4 | 1.1 | 15.4 |
| 1971 | 18.5 | 0 | 13.0 | 7.4 | 7.4 | 5.6 | 7.4 | 13.0 | 3.7 | 3.7 | 11.1 | 3.7 | 5.6 |
| 1970 | 16.7 | 9.5 | 14.3 | 7.1 | 2.4 | 4.8 | 0 | 11.9 | 7.1 | 4.8 | 16.7 | 0 | 4.8 |
| 1969 | 25.0 | 0 | 14.3 | 10.7 | 3.6 | 3.6 | 3.6 | 14.3 | 0 | 7.1 | 10.7 | 0 | 7.1 |
| 1968 | 18.8 | 0 | 6.3 | 0 | 18.8 | 12.5 | 0 | 0 | 6.3 | 6.3 | 25.0 | 0 | 6.3 |
| 1967 | 17.6 | 5.9 | 23.5 | 0 | 5.9 | 5.9 | 0 | 5.9 | 0 | 5.9 | 23.5 | 0 | 0 |
| 1966 | 11.1 | 11.1 | 0 | 5.6 | 0 | 0 | 5.6 | 5.6 | 5.6 | 11.1 | 38.9 | 0 | 5.6 |
| 1965 | 6.3 | 0 | 12.5 | 0 | 6.3 | 0 | 6.3 | 12.5 | 0 | 6.3 | 31.3 | 0 | 18.8 |
| 1964 | 6.3 | 6.3 | 0 | 0 | 6.3 | 31.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25.0 | 0 | 25.0 |
| 1963 | 25.0 | 0 | 25.0 | 0 | 12.5 | 0 | 0 | 6.3 | 0 | 0 | 18.8 | 6.3 | 6.3 |
| 1962 | 9.1 | 9.1 | 0 | 0 | 9.1 | 9.1 | 9.1 | 0 | 0 | 0 | 45.5 | 0 | 9.1 |
| 計 | | | | | | | | | | | | | |

各カテゴリーの年度別比率（慶応大）

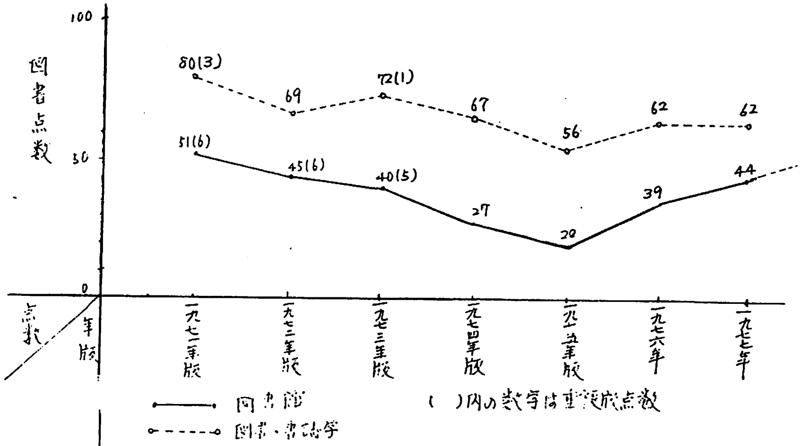
単位：%

| 年度（論文提出年度） | 管理・運営 | ネットワーク | テクニカル・サービス | IR | パブリック・サービス | 資料・メディア | 児童図書館 | 利用調査 | ビブリオメトリフス | 図書館学教育 | 図書館史 | 外国事情 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1978 | 2.5 | 6.8 | 6.8 | 4.5 | 20.5 | 2.3 | 4.5 | 6.8 | 4.5 | 2.3 | 11.4 | 0 | 9.1 |
| 1977 | 9.5 | 7.1 | 19.0 | 14.3 | 11.9 | 9.5 | 2.4 | 2.4 | 2.4 | 0 | 7.1 | 4.8 | 9.5 |
| 1976 | 8.0 | 12.0 | 16.0 | 8.0 | 14.0 | 10.0 | 2.0 | 14.0 | 2.0 | 0 | 6.0 | 0 | 8.0 |
| 1975 | 17.9 | 1.8 | 16.1 | 7.1 | 7.1 | 5.4 | 10.7 | 12.5 | 3.6 | 0 | 5.4 | 0 | 12.5 |
| 1974 | 22.4 | 0 | 6.1 | 4.1 | 8.2 | 18.4 | 10.2 | 8.2 | 4.1 | 0 | 2.0 | 2.0 | 14.3 |
| 1973 | 12.3 | 1.2 | 2.5 | 9.9 | 21.0 | 7.4 | 12.3 | 2.5 | 3.7 | 1.2 | 6.2 | 2.5 | 17.3 |
| 1972 | 9.6 | 6.8 | 17.8 | 2.7 | 13.7 | 8.2 | 9.6 | 1.4 | 2.7 | 1.4 | 6.8 | 1.4 | 17.8 |
| 1971 | 19.2 | 1.4 | 8.2 | 11.0 | 15.1 | 6.8 | 11.0 | 5.5 | 5.5 | 0 | 2.7 | 2.7 | 11.0 |
| 1970 | 12.8 | 4.7 | 14.0 | 7.0 | 10.5 | 5.8 | 9.3 | 4.7 | 5.8 | 0 | 1.2 | 5.8 | 18.6 |
| 1969 | 11.1 | 1.6 | 14.3 | 11.1 | 7.9 | 7.9 | 4.8 | 9.5 | 6.3 | 1.6 | 3.2 | 1.6 | 19.0 |
| 1968 | 6.8 | 6.8 | 21.6 | 10.8 | 8.1 | 5.4 |  | 10.8 | 8.1 | 2.7 | 0 | 0 | 18.9 |
| 1967 | 11.4 | 1.4 | 18.6 | 4.3 | 4.3 | 5.7 | 4.3 | 8.6 | 12.9 | 0 | 2.9 | 1.4 | 24.3 |
| 1966 | 10.5 | 1.8 | 19.3 | 7.0 | 14.0 | 8.8 | 7.0 | 3.5 | 7.0 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 15.8 |
| 1965 | 10.9 | 7.3 | 20.0 | 17.3 | 16.4 | 14.5 | 1.8 |  | 3.6 | 3.6 | 0 | 1.8 | 12.7 |
| 1964 | 11.7 | 3.3 | 11.7 | 0.0 | 35.0 | 6.7 | 5.0 | 3.3 |  | 0 | 0 | 1.7 | 11.7 |
| 1963 | 19.7 | 3.0 | 15.2 | 1.5 | 30.3 | 6.1 | 6.1 | 3.0 |  | 0 | 0 | 3.0 | 12.1 |
| 1962 | 20.9 | 2.3 | 14.0 | 0 | 39.5 | 2.3 | 2.3 | 4.7 |  | 0 | 2.3 | 4.7 | 7.0 |
| 計 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

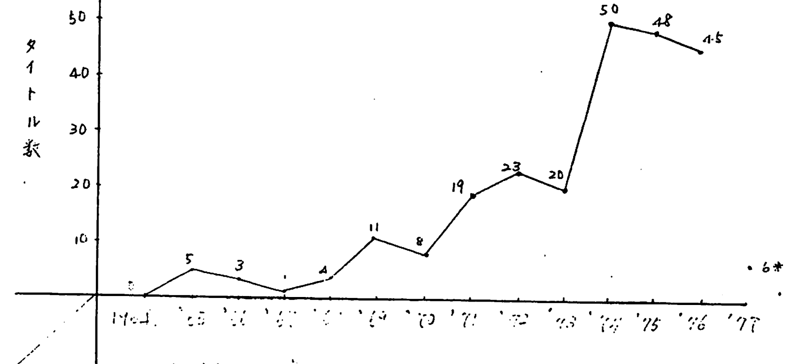
第1表 Bowker Annual...の "Basic Publications for Librarians" にリストされている図書館・情報学関係図書の主題別冊数

| | '72 | '73 | '74 | '75 | '76 | '77 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| General Work | 11 | 6 | 11 | 16 | 15 | 21 |
| Administration | 20 | 7 | 6 | — | — | — |
| Automation and Information Retrieval | 7 | 10 | 15 | 8 | 7 | 9 |
| Buildings, Furniture, Equipment | 16 | 7 | 14 | 10 | 13 | 13 |
| Children's and Young Adults' Services and Materials | 23 | 14 | 19 | 19 | 22 | 25 |
| College and University Libraries | 7 | — | 12 | 9 | 11 | 14 |
| Education for Librarianship | 10 | 4 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| Handicapped, Library Service for | 6 | — | — | — | — | — |
| Intellectual Freedom | 13 | 10 | 11 | 1 | 1 | 1 |
| Interlibrary Loan | 2 | — | — | — | — | — |
| Library History | 1 | 1 | 2 | — | — | — |
| Library Legislation | 1 | 1 | — | — | — | — |
| Materials Selection | 7 | 5 | 5 | 8 | 7 | 7 |
| Periodicals and Serials | 11 | 4 | 11 | 10 | 11 | 11 |
| Public Libraries | 13 | 3 | 15 | 13 | 15 | 10 |
| Reference Aids and Services | 17 | 16 | 13 | 10 | 11 | 17 |
| Research | — | — | — | 5 | 6 | 8 |
| School Libraries | 20 | 13 | 17 | 12 | 14 | 17 |
| Services for Special Groups | — | 5 | 9 | 9 | 7 | 10 |
| Special Libraries | 6 | 5 | 10 | 6 | 8 | 10 |
| State Libraries | — | — | 2 | 2 | 4 | 6 |
| Statistics | 1 | — | 2 | — | — | — |
| Technical Services | 15 | 7 | 16 | 11 | 11 | 8 |
| Technical Services: Acquisitions | 2 | 3 | 5 | 4 | 3 | 3 |
| Technical Services: Care and Restoration of Materials | — | — | — | — | — | 6 |
| Technical Services: Cataloging and Classification | 12 | 9 | 17 | 18 | 20 | 17 |
| TOTAL | 221 | 130 | 222 | 180 | 198 | 228 |
| Periodicals | 21 | 22 | 28 | 28 | 31 | 33 |

第1図. 出版年鑑に収録された図書館学関係図書の点数の推移




第2図. Bowker Annual., の < Basic Publications for Librarians> リスト（1977年版）に収録されている図書の出版年別タイトル数




＊ [illegible] 総数 288 タイトル（'63-'52 の間に 7点）